

■「効果の見える治水事業」

香川県 東塩入川(まんのう町)の砂防事業

香川県中讃土木事務所長 たけち たもつ
竹地 保



【東塩入川通常砂防事業】

東塩入川は、仲多度郡まんのう町塩入に位置し、阿讃山脈に源を發し二級河川財田川に合流する、流域面積0.33km²、平均溪床勾配1/6の溪流で、溪床には多量の不安定土砂が堆積しており、次期大雨により土石流が発生する危険性が高まっていました。

溪流沿いには、集落や町道等の公共施設があり、それらを土石流による被害から守る必要があることから、土石流災害を未然に防止して、住民の生命及び財産を守ることを目的に、平成16年度より東塩入川通常砂防事業に着手しました。

【進捗状況】

平成18年度から工事に着手して平成19年度にはえん堤が完成するなど、関係者の御協力で円滑に事業は進んでいます。

現在は、溪流保全工を施工しており、今年度中の事業の完了を予定しています。

施工にあたっては、工事箇所下流において溪流の豊かな水を利用して農作物の栽培が行われていることから、土砂掘削時やコンクリート打設時の濁水管理について特に注意を払っています。また工事用道路として使用している町道の幅員が狭いことから、地元関係者に迷惑がかかることのないよう心掛けています。

【おわりに】

えん堤の完成により、土石流に対する安全性は格段に高まりましたが、自然災害は完全には防ぎきれものではありません。

さまざまな自然災害による被害を少しでも軽減するには住民の防災意識の向上を図ることが大切です。

現在、まんのう町において土石流災害防止法に基づく基礎調査に着手しており、今後はハード対策と併せて、ソフト対策の充実も図っていきたいと考えています。

【事業概要】

○整備施設

- ・えん堤工：1基(堤高 13.5m、堤長 61.0m)
- ・溪流保全工：L=136m

○効果量

- ・貯砂量：6,300m³ ・調節量：3,400m³

○保全対象

- ・人家6戸、耕地2.0ha、町道0.2km、橋梁2基



完成したえん堤



下流の保全対象を望む

談話室

「安全・安心のまちづくり」

まんのう町長 くりた たかよし
栗田 隆義



とうとう

まんのう町は香川県の南西部に位置し、平成18年3月20日に土器川の源流が滔々と流れる琴南町・日本一の溜め池「満濃池」や四国唯一の「国営讃岐まんのう公園」を有する満濃町・雄大な阿讃山脈の麓にたまたむ仲南町の3町が合併し誕生しました。

町の由来ともなる日本一の溜め池「満濃池」は讃岐の水瓶とも言われ弘法大師空海が改修・監修し古の時からこの地に多くの恵みをもたらしてきました。町の南側は標高1,000メートルを超える竜天山、大川山を主峰とする讃岐山脈が連なり、その麓を県下で唯一の一級河川土器川が流れています。面積は194.17平方キロメートル、人口約20,600人のまちであります。

ところで、この東塩入川は阿讃山脈に源を發し三豊市、観音寺市へと流れる二級河川財田川に合流する河川で普段は穏やかな溪流であります。

しかし、近年地球温暖化により想像を絶する豪雨が何時何処で発生するかわからなく、この地域も一旦発生すると地形が急峻なためたちまち土石流となって下流の民家及び農地等に甚大な被害を及ぼす恐れがあります。このような災害を防ぐためには、治水砂防事業のダム建設が最も有効であります。

この地区を含め仲南地区におきましては、平成17年から災害時を想定して自治会を中心に消防団と連携しながら、各自治会内で5世帯を1単位としてお互いが協力しあい安否確認を含め避難訓練及び救急連絡体制づくりを行っており最低でも年一回は実施しています。

今後はまんのう町全体にて実施したいと考えております。



自治会からの人員報告訓練



負傷者の救出訓練